

『天研』誌の記事

著者名	論文名(タイトル)	号数	掲載頁数
諸井 慶一郎	おふでさき字句考ー「ふ」字についてー	1	2
澤井 勇一	別席の「初試験」資料ー特に、「八つのほこり」をめぐってー	1	20
山口 渡	だめの教と諸宗教	1	28
山本 欣旦	ふし・世界事情ー天変地異について	1	45
中村 寛見	「神様の有無に就いて」のー考察	1	64
伊橋 幸江	伝承資料の確認と解釈ー「分からん子どもが分からんのやない」についてー	1	75
安井 幹夫	おふでさき刊本小史ー資料ー覧	1	3
諸井 慶一郎	みかぐらうた解釈考	2	2
澤井 勇一	「身の内御話」考ー別席の「初試験」資料をめぐってー	2	29
安井 幹夫	おふでさき写本の一側面ー教理史の資料として	2	51
山口 渡	こふき話における「見立て」ー神名説き分けの順序をめぐって	2	86
茶本 光一	学生層の育成についてーとくに、ひのきしん活動をとおして	2	114
山本 欣旦	「二十六日」の理についてーまつり日とおつとめとの関係において	2	133
藤島 広彦	家族倫理ー親孝心について	2	157
伊橋 幸江	「おさしづ」解釈における一つの試みー「たんのう」の具体的意味をめぐってー	2	170
瀬戸 嗣治	「エホバの証人」考	2	183
諸井 慶一郎	天理教信仰要理	3	2
澤井 勇一	「八つのほこり」説き分け考ー辻忠作「ひながた」における説き分けについてー	3	37
安井 幹夫	親心考	3	47
山口 渡	こふき話における「天神七代」「地神五代」	3	67
茶本 光一	女性の立場と役割ー婦人会第二回総会講演集によって	3	88
山本 欣旦	「陽気遊山」についてーその言葉の典拠と意味をめぐって	3	100
藤島 広彦	家族倫理ー夫婦の治まり	3	133
伊橋 幸江	「おふでさ」「きおさしづ」と「こふき話」ー「たがいたすけ」の意味をめぐってー	3	150
瀬戸 嗣治	「モルモン教」考	3	159
諸井 慶一郎	おてふりの考察	4	2
澤井 勇一	「かりもの一条」おはなし考	4	32
安井 幹夫	「とくしん」考	4	46
山口 渡	おさしづにおける「成程」	4	62
茶本 光一	「人がめどか、神がめどか」ー梅谷四郎兵衛の信仰に学ぶ	4	76
山本 欣旦	教祖の衣裳についてー黒衣・赤衣をとおして	4	89
藤島 広彦	家族倫理ー子供の「十五才までは親の事情」について	4	109
伊橋 幸江	増井りん筆、扇面文書についてー「男女別け隔てなくたすけ一条の道」をめぐって	4	121
瀬戸 嗣治	「ヤマギシ会」考	4	131
諸井 慶一郎	教理文書の考察ー十六年こふき本をめぐって	5	3
澤井 勇一	「八つのほこり」おはなし考ー山田太右衛門「初期の信話」を読む	5	53
山口 渡	おさしづにおける「四方正面」をめぐって	5	107
山本 欣旦	教祖の見抜き見通しについてー過去・現在・未来	5	123
藤島 広彦	「(子供の)十五才までは親の事情」における子育て論の視点ー『陽気』の特集記事にもとづいて	5	147
伊橋 幸江	「菜のは一枚でも、粗末にせぬように」の意味理解ー大久保とよ「持ち味を生かす」をめぐって	5	159
瀬戸 嗣治	「オウム真理教」考	5	173
瀬戸 嗣治	真の宗教とその意味	6	51-73
澤井 勇一	「話しの台」おはなし考ー宮森与三郎「だめの教抄」を読むー	6	3月23日
安井 幹夫	明治期におけるみかぐらうた解釈本	6	25-50
澤井 勇一	「話の台」おはなし考ー宮森与三郎「だめの教抄」を読むー	6	3月23日
安井 幹夫	明治期におけるみかぐらうた解釈本	6	25-50
瀬戸 嗣治	真の宗教とその意味	6	51-73
山本 欣旦	陽気遊山の世界ー『山田伊八郎文書』より見てー	6	75-99
藤島 広彦	たんのうの論しー特におさしづにおける「たんのう論し」「たんのう論し」の表現にみるー	6	101-116
伊橋 幸江	原典理解と教祖ひながたーとくに中山慶一「ひながたーその本質」をめぐってー	6	117-132
松山 常教	親神の「うけとる」ということについての考察ーおふでさき、みかぐらうたにみる救済の筋道ー	6	133-152
澤井 勇一	「はなし一条」考 諸井政一「教の理」を読む	7	3-19
安井 幹夫	教理伝播について 明治期の教理文書を手がかりに	7	21-44
茶本 光一	「澄んだる誠、肥要らん」「おさしづ」における「修理肥」「修理」「肥」について	7	45-61
山本 欣旦	教祖食事考	7	79-96

『天研』誌の記事

著者名	論文名(タイトル)	号数	掲載頁数
藤島 広彦	おさしづにおける「たんのうの論し」の特徴 特に「世上見てたんのう」の意味内容の検討をとおして	7	97-116
伊橋 幸江	増井りん筆「扇面文書」による「おさしづ」理解の試み 特に、「互いノの論し合いの道」について	7	117-126